

令和 6 年度

事 業 報 告



日本赤十字社 石川県支部
Japanese Red Cross Society



ご あ い さ つ

日本赤十字社石川県支部

支部長 馳 浩

赤十字活動の推進につきましては、平素より県民の皆様及び地区・分区はじめ関係の皆様から深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年元日に発生した令和六年能登半島地震では、県内観測史上最大の震度7を記録するなど、未曾有の大災害となりました。更に、九月二十一日に発生した令和六年奥能登豪雨は、元日の地震から八ヶ月余りしか経過していない中、復旧・復興の途上にある被災地を襲った二重災害となりました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。

日本赤十字社は、発災当初から全国の支部、赤十字病院、血液センター、奉仕団といった赤十字の総合力を発揮して、医療救護活動や、こころのケア活動、救援物資の配送など、被災された方々の「いのちと健康、尊厳を守る」ため全力で取り組んでまいりました。全国の赤十字関係者の応援を受けて、医療救護やこころのケアには延べ3,600人に達する赤十字職員が携わり、毛布や安眠セット、緊急セットなど、数多くの救援物資を被災地にお届けすることができました。

また、義援金につきましては、全国の皆様から日本赤十字社にお寄せいただき、その全額を石川県が設置した義援金配分委員会に送金いたしております。赤十字には5月までに、地震分として四百十億円を超える額が、豪雨分として二十億円を超える額が寄せられており、改めて心より感謝申し上げます。

現在、被災地では、被災者の方々の懸命な取組や、県内外の多くの方々の温かいご支援により、復旧から復興に向けた動きが少しずつ進展しております。石川県支部としても、仮設住宅におけるリラクゼーションの提供など、被災地に寄り添う活動を継続してまいります。また、このたびの被災経験を踏まえ、救護活動に必要な資機材の整備、救援物資の備蓄、救急法講習会や防災セミナーの開催など、万一の事態に備える活動にも力を入れてまいります。こうした国内外における赤十字事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって支えられております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

金沢赤十字病院では、令和6年能登半島地震、令和6年奥能登豪雨災害において、医療救護班、こころのケア班を被災地へいち早く派遣するなど、災害拠点病院や地域における中核病院としての役割を果たしながら、安全で質の高い医療サービスを提供してきました。また、平時から地域に根差した最適な医療を提供するため、地域包括ケア病棟等を有効に活用し、地域医療連携強化、救急医療の充実を図ることにより、地域の幅広い医療ニーズに対応できるよう努めてきました。

赤十字血液センターにつきましても、国内献血による国内自給を基本理念とした安全で安心できる血液確保が求められている中、災害発生時においても県民の皆様方の献血により、医療機関が必要とする輸血用血液を安定供給することができました。

日本赤十字社では、日頃の備えとしての健康生活支援講習や幼児安全法等の普及、赤十字奉仕団の育成強化や青少年赤十字活動の推進のほか、海外赤十字社に対する支援活動等も実施いたしております。こうした国内外における赤十字事業の財源は、県民の皆様からお寄せいただく「社資」によって支えられております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが県民の皆様方におかれましては、今後とも赤十字事業に対しまして、温かいお力添えを賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶といたします。

目 次

1	評議員会等の開催状況	1
(1)	評 議 員 会	1
(2)	監査委員による監査	2
(3)	石川県日赤紺綬有功会総会	2
(4)	金色有功章等伝達式及び支部長感謝状贈呈式	3
2	社資収納状況調	4
(1)	令和6年度社資収納実績	4
(2)	社資収納額の推移（10年間）	4
(3)	令和6年度地区・分區別一般社資収納状況	5
(4)	令和6年度金沢市地区内分區別一般社資収納状況	6
(5)	令和6年度納入会費額別会員（個人）数	7
(6)	令和6年度納入会費額別会員（法人）数	8
(7)	令和6年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数	8
3	義援金・海外救援金	9
(1)	義 援 金	9
(2)	海外救援金	9
(3)	日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」（海外救援金）	9
4	災害救護体制	10
(1)	救 護 班	10
(2)	救護要員用装具の保有状況	10
(3)	救護用資機材の保有状況	11
(4)	NBC災害用資機材	11
(5)	DMAT装備	12
(6)	地区・分区における救援車配備・整備状況	12
5	災害救護・救援活動及び訓練	13

(1) 災害救護・救援活動	13
(2) 防災訓練等への参加	14
(3) 救護員に対する研修	15
(4) 防災教育事業	15
6 救 援 物 資	16
7 その他救護活動	17
8 看 護 師 養 成	17
9 救急法・健康生活支援講習等の普及	18
(1) 講習会の開催状況（総括）	18
(2) 養成講習会等の開催状況	19
(3) 開催地別講習会開催状況	21
(4) 救急法等指導員在籍状況	22
(5) 指導員の研修等	22
10 赤 十 字 奉 仕 団	23
(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況	24
(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況	25
(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況	25
(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催	25
(5) 赤十字ボランティア研修会の開催	25
(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動	25
(7) 奉仕団員による支援活動	26
(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』	27
11 青 少 年 赤 十 字	28
(1) 青少年赤十字の加盟校（園）の状況	28
(2) 指導体制の充実・強化	29
(3) メンバーの活動状況	30
(4) 国際理解・親善活動	30
(5) ボランティア活動	30

(6) 普及活動	30
(7) 指導用教材資料の貸し出し	30
12 国際活動	31
13 医療事業	32
(1) 患者数	33
(2) 診療科別患者数	33
(3) 診療単価等	33
14 医療・保健等の社会事業	34
15 血液事業	34
(1) 安全な血液製剤の安定供給	34
(2) 献血者の安定的確保	35
(3) 効率的な事業運営	36
(4) 持続可能な血液事業（事業の活性化）の推進	37
(5) 造血幹細胞事業の推進	37
(6) 献血・血液製剤供給状況等（令和6年度）	38
16 決算状況	40
(1) 令和6年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書	40
(2) 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出決算書	41
17 日本赤十字社石川県支部役員名簿	42

1 評議員会等の開催状況

令和6年度における評議員会等の開催状況は、次のとおりである。

(1) 評議員会

第1回評議員会

期 日 令和6年6月25日(水)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 12名

議 事

- ・議案第1号

令和5年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出決算等の承認について

第2回評議員会

期 日 令和7年1月28日(火)

会 場 石川県赤十字血液センター 2階 大会議室

出席者 評議員 32名(委任状を含む)、役員・参与 12名

議 事

- ・議案第1号

令和6年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出補正予算(案)等について

- ・議案第2号

令和7年度 事業計画(案)及び地区分区分別社資目標額(案)について

- ・議案第3号

令和7年度 一般会計及び特別会計 歳入歳出予算(案)について

- ・議案第4号

役員改選(案)について

令和7年2月13日で任期満了となる代議員の田谷正氏が再任され、持木一茂氏及び富久尾佳枝氏が新たに選出された。

(2) 監査委員による監査

期 日 令和6年6月17日(月)

会 場 日本赤十字社石川県支部 講習室

出席監査委員 岸 弘市 氏、高澤 良英 氏、武田 純 氏

日本赤十字社石川県支部一般会計、金沢赤十字病院特別会計の令和5年度歳入歳出決算及び石川県赤十字血液センターの業務に係る監査が実施され、いずれも適正であると認定された。

(3) 石川県日赤紺綬有功会総会

期 日 令和6年10月30日(水)

会 場 A N Aクラウンプラザホテル金沢

出席会員 27名

議 事

- ・ 令和5年度石川県日赤紺綬有功会事業報告及び収支決算の承認について
- ・ 令和6年度石川県日赤紺綬有功会事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について
- ・ 役員の改選について

その他

- ・ 赤十字活動の近況報告
- ・ オーケストラ・アンサンブル金沢演奏会

チェロ首席奏者 植木 昭雄 氏

ピアノ 窪田理恵子 氏

石川県立音楽堂館長 表 正人 氏



石川県日赤紺綬有功会総会



オーケストラ・アンサンブル金沢演奏会の様子

(4) 金色有功章等伝達式及び支部長感謝状贈呈式

期 日 令和6年8月30日(金)

会 場 石川県庁行政庁舎 4階 特別会議室

表 彰

日本赤十字社金色有功章

個人4名、法人1社

日本赤十字社銀色有功章

個人0名、法人2社

日本赤十字社社長感謝状

個人3名、法人1社

石川県支部長感謝状

個人1名、法人1社、6地区分区

紺綬褒章

個人1名



金色有功章等伝達式



記念写真

2 社 資 収 納 状 況 調

(1) 令和6年度社資収納実績

区 分		令 和 6 年 度			令和5年度 実 績 額 (B)	増 減 額 (A)－(B)
		目 標 額	実績額(A)	達 成 率		
一般社資	地区分区扱	千円 134,121	千円 98,719	% 73.6	千円 106,105	千円 -7,386
	支 部 直 扱	11,879	55,755	469.4	75,778	-20,023
	計	146,000	154,474	105.8	181,883	-27,409
法 人 社 資		12,000	35,477	295.6	23,168	12,309
計		158,000	189,951	120.2	205,051	-15,100

(2) 社資収納額の推移(10年間)

年 度	一 般 社 資		法 人 社 資		計	
	金 額	前年度比	金 額	前年度比	金 額	前年度比
平成27年度	千円 151,140	% 108.8	千円 11,747	% 116.4	千円 162,887	% 109.3
28	142,579	94.3	12,079	102.8	154,658	94.9
29	136,398	95.7	10,823	89.6	147,221	95.2
30	137,373	100.7	10,137	93.7	147,510	100.2
令和元年度	146,615	106.7	12,798	126.3	159,413	108.1
2	172,876	117.9	14,762	115.3	187,638	117.7
3	147,851	85.5	23,802	161.2	171,653	91.5
4	153,696	104.0	19,084	80.2	172,780	100.7
5	181,883	118.3	23,168	121.4	205,051	118.7
6	154,474	84.9	35,477	153.1	189,951	92.6

(3) 令和6年度地区・分區別一般社資収納状況

地区・分 区	目 標 額	実 績 額	達 成 率	前年度比
金 沢 市	51,733,000 ^円	36,103,381 ^円	69.8 [%]	103.8 [%]
七 尾 市	6,730,000	4,392,890	65.3	72.1
小 松 市	11,752,000	11,370,872	96.8	115.8
輪 島 市	3,237,000	0	0.0	0.0
珠 洲 市	1,570,000	0	0.0	0.0
加 賀 市	7,039,000	5,262,064	74.8	100.4
羽 咋 市	2,705,000	2,558,820	94.6	100.0
か ほ く 市	4,577,000	4,176,491	91.2	100.0
白 山 市	12,307,000	9,539,030	77.5	95.3
能 美 市	5,586,000	5,006,820	89.6	99.1
野 々 市 市	7,365,000	7,140,929	97.0	96.5
川 北 町	586,000	582,700	99.4	101.0
津 幡 町	5,462,000	4,828,449	88.4	104.4
内 灘 町	3,213,000	2,564,326	79.8	95.5
志 賀 町	3,265,000	891,600	27.3	41.4
宝 達 志 水 町	1,533,000	1,338,695	87.3	95.4
中 能 登 町	2,043,000	2,096,000	102.6	99.7
穴 水 町	1,081,000	846,483	78.3	72.6
能 登 町	2,337,000	19,363	0.8	0.8
市 町 計	134,121,000	98,718,913	73.6	93.0

(4) 令和6年度金沢市地区内分区分一般社資収納状況

分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比	分区分名	目標額	実績額	達成率	前年度比
野 町	円 760,000	円 445,694	% 58.6	% 69.3	三 和	円 922,000	円 700,353	% 76.0	% 98.1
弥 生	890,000	570,573	64.1	113.2	三 馬	1,244,000	549,020	44.1	109.7
中 村 町	926,000	499,700	54.0	94.0	米 泉	728,000	583,795	80.2	105.8
十 一 屋	677,000	473,635	70.0	103.4	富 樫	862,000	394,940	45.8	101.8
泉 野	1,595,000	1,457,280	91.4	98.8	伏 見 台	1,169,000	610,600	52.2	118.9
長 坂 台	874,000	696,314	79.7	120.9	額	895,000	614,906	68.7	114.3
新 豎 町	924,000	441,700	47.8	117.2	四 十 万	483,000	277,600	57.5	122.7
菊 川	1,070,000	814,564	76.1	106.5	扇 台	1,062,000	961,849	90.6	107.9
材 木 町	1,249,000	626,045	50.1	92.6	長 田 町	663,000	483,100	72.9	109.1
味噌蔵町	1,096,000	656,737	59.9	116.3	戸 板	1,013,000	696,463	68.8	98.8
長 町	342,000	251,600	73.6	100.8	西	565,000	394,061	69.7	95.9
松 ヱ 枝	453,000	387,346	85.5	105.2	二 塚	900,000	628,490	69.8	113.7
長 土 堀	686,000	612,926	89.3	106.9	安 原	756,000	483,600	64.0	96.3
芳 斉	422,000	327,663	77.6	102.2	大 徳	2,606,000	1,430,004	54.9	104.6
此 花	266,000	210,241	79.0	92.9	金 石 町	1,256,000	922,889	73.5	103.9
瓢 箪	575,000	445,037	77.4	100.4	大 野 町	385,000	283,705	73.7	114.0
馬 場	570,000	502,390	88.1	100.7	小 立 野	1,248,000	991,966	79.5	99.1
浅 野 町	652,000	341,233	52.3	102.5	崎 浦	2,269,000	1,690,839	74.5	108.3
森 山	1,302,000	864,900	66.4	103.2	内 川	114,000	108,600	95.3	103.9
小 坂	1,693,000	1,257,576	74.3	96.3	犀 川	467,000	346,773	74.3	140.6
千 坂	1,320,000	946,138	71.7	97.6	湯 涌	136,000	194,900	143.3	101.7
夕 日 寺	664,000	729,729	109.9	127.8	田 上	1,043,000	646,710	62.0	100.9
諸 江	1,471,000	711,385	48.4	98.6	東 浅 川	98,000	99,000	101.0	97.1
浅 野 川	552,000	284,799	51.6	82.9	俵	46,000	80,501	175.0	136.9
鞍 月	811,000	765,160	94.3	114.5	医 王 山	93,000	109,100	117.3	99.3
栗 崎	654,000	635,063	97.1	111.7	森 本	677,000	499,651	73.8	105.8
川 北	347,000	247,776	71.4	102.4	花 園	381,000	195,993	51.4	81.7
大 浦	947,000	567,545	59.9	115.7	湖 南	679,000	550,000	81.0	100.0
米 丸	1,706,000	1,015,226	59.5	102.3	薬 師 谷	362,000	277,310	76.6	96.4
新 神 田	590,000	579,810	98.3	121.1	三 谷	212,000	202,600	95.6	101.5
押 野	1,303,000	1,067,596	81.9	99.0	市 直 扱	0	0	0.0	0.0
西 南 部	1,012,000	660,682	65.3	99.6	金 沢 計	51,733,000	36,103,381	69.8	103.8

(5) 令和6年度納入会費額別会員(個人)数

地区区分名	2千円 以 上	5千円 以 上	1万円 以 上	2万円 以 上	5万円 以 上	10万円 以 上	20万円 以 上	50万円 以 上	100万円 以 上	人 数
金 沢 市	1442	208	91	13	6	1	0	0	0	1761
七 尾 市	0	0	3	30	0	2	0	0	0	35
小 松 市	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
輪 島 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
珠 洲 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加 賀 市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
羽 咋 市	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
かほく市	38	8	5	4	0	0	0	0	0	55
白 山 市	18	6	6	16	0	0	0	0	0	46
能 美 市	14	1	2	1	0	0	0	0	0	18
野々市市	7	2	1	0	0	0	0	0	0	10
川 北 町	0	1	0	4	0	0	0	0	0	5
津 幡 町	30	1	2	0	0	2	2	0	0	37
内 灘 町	20	4	4	0	0	0	0	0	0	28
志 賀 町	56	6	7	2	0	2	0	0	0	73
宝達志水町	11	2	1	0	0	0	0	0	0	14
中能登町	15	2	1	2	0	0	0	0	0	20
穴 水 町	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
能 登 町	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
地区分区計	1652	241	125	74	6	8	2	0	0	2108
支部直扱	885	347	396	145	49	43	13	9	7	1894
個人合計	2537	588	521	219	55	51	15	9	7	4002

(6) 令和6年度納入会費額別会員(法人)数

	2千円 以 上	5千円 以 上	1万円 以 上	2万円 以 上	5万円 以 上	10万円 以 上	20万円 以 上	50万円 以 上	100万円 以 上	人 数
法 人	58	45	56	189	27	20	10	2	3	410

(7) 令和6年度紺綬褒章、感謝状及び有功章受章者数

表 彰 区 分	功 労 区 分	個 人	法 人	地区分区	計
紺 綬 褒 章	社 資 功 労	1			1
厚生労働大臣感謝状	社 資 功 労	1			1
日本赤十字社社長感謝状	社 資 功 労	8	9		17
金 色 有 功 章	社 資 功 労	7	5		12
	業 務 功 労	3			3
銀 色 有 功 章	社 資 功 労	10	8		18
	業 務 功 労	2			2
支 部 長 感 謝 状	社 資 功 労	2	3	12	17
総 計		34	25	12	71

3 義援金・海外救援金

国の内外において発生した災害等による被災者に対し、県民から寄せられた義援金等の付状況は次のとおりである。

なお、(1)義援金のうち、「令和6年能登半島地震災害義援金」及び「令和6年9月能登半島大雨災害義援金」については、全国の赤十字から寄せられた合計額である。

(1) 義 援 金

災 害 等 名	件 数	金 額
令和6年7月25日からの大雨災害義援金	9 件	98,886 円
令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金	4 件	4,005 円
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	1 件	50,000 円
計	14 件	152,891 円

災 害 等 名	件 数	金 額
令和6年能登半島地震災害義援金	3,663 件	7,228,897,583 円
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	1,147 件	2,258,034,514 円
計	4,810 件	9,486,932,097 円

(2) 海外救援金

災 害 等 名	件 数	金 額
無 指 定 海 外 救 援 金	3 件	2,310 円
ウクライナ人道危機救援金	10 件	48,724 円
イスラエル・ガザ人道危機救援金	3 件	30,220 円
2024年台湾東部沖地震救援金	17 件	363,166 円
レバノン人道危機救援金	4 件	19,668 円
計	37 件	464,088 円

(3) 日本放送協会との共催による「NHK海外たすけあい」（海外救援金）

災 害 等 名	件 数	金 額
N H K 海 外 た す け あ い	427 件	765,675 円

義援金・海外救援金 合計 9,488,314,751 円

4 災 害 救 護 体 制

(1) 救 護 班

令和6年度における救護要員の登録状況は次のとおりである。

災害対策本部要員	39人
救 護 班 要 員	58人
血 液 供 給 要 員	18人
特 殊 救 護 員	5人
計	120人

救護班は8個班編成することとしている。

救護班の標準編成基準

医 師	看護師長	看 護 師	主 事	計
1 人	1 人	2 人	2 人	6 人

(注) 編成については、救護業務の状況に応じ個々の基準人員を増減し、また、必要に応じ薬剤師、助産師、特殊救護員を加える。

救護班要員58人の内訳

職 種	要 員 数
医 師	8 人
看 護 師 長	8
看 護 師	22
主 事	20

(金沢赤十字病院)

(2) 救護要員用装具の保有状況

(令和7年3月末現在)

品 名	数 量	品 名	数 量
作業衣(帽子・バンド含む)	112 着	ヘルメット	37 個
雨 衣	56 着	ヘッドライト	20 個
防 寒 具	34 着	寝 袋 (シ ュ ラ フ)	12 枚
作 業 靴	32 足	防災ボランティア用夜光反射ベスト	80 着
夜 光 反 射 ベ ス ト	56 着	防災ボランティア用ヘルメット	80 個

(3) 救護用資機材の保有状況

(令和7年3月末現在)

整備区分	整備数	管 理 者				整備区分	整備数	管 理 者			
		支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区			支 部	病 院	血 液 センター	地区・分区
業務無線基地局	2 局	2				投 光 機	14 基	14			
業務無線車載局	31 局	12	3	16		簡 易 ベ ッ ド	165 基	24	100		41
業務無線携帯局	23 局	23				担 架	59 基	8	10		41
アマ無線局	4 局	4				簡 易 処 置 台	13 台	5	8		
救 急 車	1 台		1			医 療 セ ッ ト	3 組	1	2		
救 援 車	32 台	4			28(1)	携帯型医療セット	2 組	2			
連 絡 車	8 台	1	1	6		浄 水 器	4 機	1	3		
採 血 車	3 台			3		簡 易 ト イ レ	10 器	10			
採血検査車	3 台			3		ツ ル ハ シ	2 本	2			
血液輸送車	8 台			8		ス コ ッ プ	4 本	4			
資材輸送車	2 台			2		レスキューボード	3 機	3			
車両搭載用「救急セット」	39 組	4			35	バックボード	1 個	1			
救護用エアテント	3 張	3				シュノーケル	10 個	10			
救護テント	194 張	9			185	マ ス ク	10 個	10			
奉仕団テント	52 張				52	フ ィ ン	10 個	10			
発 電 機	9 基	9									

(注) () は、令和2年度に新規購入又は更新した数量で内書き。

(4) NBC災害用資機材

(N : Nuclear 「核」、B : Biological 「生物」、C : Chemical 「化学」)

品 名	数 量	品 名	数 量
除 染 テ ン ト	1	防 護 マ ス ク	12
防 護 服 セ ッ ト	12	除 染 済 者 セ ッ ト	50
A E D	2		

(5) DMAT装備

(DMAT : Disaster Medical Assistance Team)

品 名	数 量	品 名	数 量
ポータブル人工呼吸器	1	輸 液 ポ ン プ	1
ポ ー タ ブ ル 吸 引 器	1	簡易型心電図モニター	1

(6) 地区・分区における救援車配備・整備状況

(令和7年3月現在)

配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)	配 備 先	登 録 日	車 種 (型式)
七 尾 市	R 4. 1.11	ワ ゴ ン	川 北 町	H17. 5.26	ワ ゴ ン
小 松 市	H23. 9.14	ライトバン	野 々 市 市	H16. 7.29	ワ ゴ ン
	H29. 9.22	ワ ゴ ン	津 幡 町	H25. 9.19	ワ ゴ ン
輪 島 市	H25. 8.30	ワ ゴ ン	志 賀 町	H24. 9. 6	ワ ゴ ン
	H30. 9.18	ワ ゴ ン	宝達志水町	H29. 8.24	ワ ゴ ン
珠 洲 市	R 6. 2.20	ワ ゴ ン	中 能 登 町	H23.11.14	ワ ゴ ン
加 賀 市	H22. 9.14	ワ ゴ ン		R 5. 9.29	ワ ゴ ン
羽 咋 市	H29. 2.17	ワ ゴ ン	穴 水 町	R 3. 7.28	ワ ゴ ン
か ほ く 市	H26. 7.23	ワ ゴ ン	能 登 町	H28. 3.29	ワ ゴ ン
	R 1. 7.22	ワ ゴ ン	計	2 2 台	
白 山 市	R 2. 9. 4	ワ ゴ ン			
能 美 市	H28. 7.26	ワ ゴ ン			
	R 6.11.29	ワ ゴ ン			

(注) 平成10年度から市町又は地区・分区が取得(登録)する災害救援用車両に対し、取得費の(100万円限度)を助成している。

平成23年度より、助成額の上限を取得費の(70万円限度)に改定した。

5 災害救護・救援活動及び訓練

令和6年能登半島地震では、全国の赤十字施設の協力を得て、被災地での救護活動を行った。また、令和6年9月21日に発生した令和6年能登半島豪雨では、第3ブロックの赤十字施設の協力を得て、医療救護、こころのケア行い、その後もボランティア活動を継続的に実施している。その他、各防災関係機関合同の防災訓練等への参加、救護班要員に対する研修を行った。

(1) 災害救護・救援活動

令和6年能登半島地震において、石川県支部では日赤災害医療コーディネートチームと協働し、全国からの救護班等を被災地に派遣、医療救護およびこころのケア活動を実施した。被災地の医療機関の回復状況や被災地関係者との協議に基づき、3月9日に救護班の派遣を終了。4月以降は、こころのケアを中心とした活動を継続した。避難所を巡回し、傾聴やリラクゼーションケアを提供、また、疲弊している行政職員に対し、リラクゼーションケアと休息の場を提供し、ストレスへの対処法等の啓発活動を行った。被災地関係者との協議の結果、5月3日に日赤の救護活動を被災地へ引き継ぎ、第3次救護体制を解除した。

令和6年1月1日から5月3日までの活動期間中、救護班は延べ342班、日赤災害医療コーディネートチームは延べ119チーム、こころのケア班は延べ45班、赤十字ボランティアは延べ1,709人が被災地で活動した。5月以降は、被災者のストレス軽減および仮設住宅におけるコミュニティ形成支援を目的として、各種奉仕団を中心としたボランティア活動に移行した。

9月21日、奥能登地域で大雨および河川氾濫が発生。石川県支部は同日に第1次救護体制、翌日に第3次救護体制を発令し、第3ブロックの日赤災害医療コーディネートチームと協働で活動を開始した。災害対策本部では、被災地の被害状況や医療ニーズ等の情報収集、救護班等の派遣調整を実施した。被害が甚大な珠洲市へ金沢赤十字病院救護班を派遣、輪島市保健医療福祉調整本部に支部職員1名を赤十字リエゾンとして派遣し、行政、日本DMAT、NGO等と連携し、救護活動を行った。第3ブロックの協力を得て、珠洲市・輪島市に救護班計5班を派遣し、避難所の環境整備、被災者の健康管理等を行った。10月からは、被災地の医療機関の機能回復を踏まえ、二重被災者へのこころのケアを中心とした活動に移行。輪島市に計11班のこころのケア班を派遣し、被災者のストレス状況のアセスメント、市役所職員に対するリラクゼーションを実施した。12月19日、市保健師との協議に基づき、こころのケア班の派遣を終了、同日、第3次救護体制を解除した。

また、能登半島地震発生後から赤十字防災ボランティアリーダー1名が奥能登地域のボランティアセンター運営に参画し、令和7年4月現在も同センターの運営等に従事している。



令和6年能登半島地震 こころのケア班の活動の様子



令和6年奥能登豪雨 石川県支部災害対策本部の様子



令和6年能登半島豪雨 救護班の活動の様子



令和6年能登半島豪雨 救護班の活動の様子



令和6年能登半島豪雨 こころのケア班の活動の様子



令和6年能登半島豪雨 こころのケア班の活動の様子

(2) 防災訓練等への参加

ア 石川県原子力防災対策通信連絡演習

毎月第2水曜日に、北陸電力(株)志賀原子力発電所を発信元とし、次のルートで通報を伝達する「異常事態発生通報訓練」に参加し、医療救護班の初動体制の確保に備えた。

北陸電力(株)志賀原子力発電所 → 県危機対策課 → 県医療対策課 → 日赤県支部

イ 石川県防災総合訓練

令和6年11月10日(日)津幡町一円において実施された標記訓練に金沢赤十字病院DMAT1班、特殊奉仕団・地域奉仕団21名が参加し、医療救護訓練とボランティアセンター運営訓練を実施した。

ウ 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練

令和6年11月16日(土)～17日(日)、静岡県にて開催された標記訓練について、支部職員3名、金沢赤十字病院医療救護班1班、石川県血液センター1名が参加。日本赤十字社静岡県支部と浜松市における災害救護体制について講義を受けた。地震被害を想定し、浜松赤十字病院での参集訓練、傷病者受け入れ訓練を実施した。



石川県防災総合訓練の様子



第3ブロック支部合同災害救護訓練の様子

(3) 救護員に対する研修

ア 「救護員としての赤十字看護師研修」の実施

災害時の救護業務を円滑かつ的確に遂行するため、看護師に対して研修(全7回)を実施し、新たに5名を救護員として登録した。

イ 「原子力災害時の救護研修」の実施

令和7年1月26日(日)～27日(月)に、石川県赤十字血液センターにて、放射線環境下での救護活動に安全かつ安心して従事できることを目的に研修を開催し、第3ブロックの救護員41名が放射線や原子力災害医療体制等にかかる基本的知識及び技能を学んだ。

ウ 「第3ブロック赤十字救護班研修」への参加

令和7年2月7日(金)～8日(土)に、愛知県日赤愛知災害管理センター棟にて、今後予測されている大規模災害における日本赤十字社の災害対応能力の強化を図ることを目的に研修が開催された。救護班1班と指導スタッフ4名が参加し、救護員に求められる基礎的知識と技術を学んだ。

(4) 防災教育事業

ア 赤十字防災セミナーの開催

3つの地域奉仕団を対象にDIGを実施し、JRC加盟校を対象にKAGを実施。災害時の地域の課題や防災対策を検討する訓練を実施した。

6 救 援 物 資

地区・分区における救援物資の令和6年度中における被災者(火災等含む)に対する配布実績及び令和6年度末における保有数は次のとおりである。

地区分区	配 布 数			保 有 数			地区分区	配 布 数			保 有 数		
	毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット		毛布	緊急セット	タオルケット	毛布	緊急セット	タオルケット
七 尾 市	枚 3	セット 2	枚	枚 88	セット 18	枚 5	津 幡 町	枚 2	セット 1	枚	枚 8	セット 3	枚 0
小 松 市	2	2		41	52	0	内 灘 町				33	12	0
輪 島 市				0	0	0	志 賀 町	15	3		34	8	0
珠 洲 市				520	690	0	宝達志水町				55	13	0
加 賀 市				90	33	52	中 能 登 町				0	220	18
羽 咋 市				2	5	8	穴 水 町				1160	186	0
か ほ く 市				81	14	0	能 登 町				150	48	0
白 山 市	10	1	10	235	49	42	金 沢 市	18	7		19	10	0
能 美 市		1		43	8	0	計	50	17	10	2605	1391	125
川 北 町				26	10	0	支 部				630	180	1248
野々市市				20	12	0	総 計	50	17	10	3235	1571	1373



7 その他救護活動

県、市町等からの依頼により、各種イベント等の会場へ奉仕団員等を派遣し、事故の防止と救護活動を実施した。

行 事 名	期 日	派遣延数
石川県障害者スポーツ大会	5月19日(日) 25日(土) 26日(日) 6月1日(土) 2日(日)	11名
かなざわ百万石まつり	6月 1日(土)	122名
野々市じょんからの里マラソン大会	10月20日(日)	3名
金沢マラソン	10月27日(日)	82名
石川県戦没者慰霊式	12月20日(金)	6名
計		225名

8 看 護 師 養 成

金沢赤十字病院における医療救護班要員の中核となる看護師を確保するとともに、医療施設要員の充足を図るため、金城大学(看護学部)生6人に対し奨学金を支給した。

大学別学生数

大学名 \ 学 年	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	計
日本赤十字豊田看護大学	— 人	— 人	— 人	— 人	人
石 川 県 立 看 護 大 学	—	—	—	—	
金城大学(看護学部)	1	1	2	2	6
合 計					6

9 救急法・健康生活支援講習等の普及

新型コロナウイルス感染症の5類感染症に移行したことに伴い、従来の対面講習を主とし受講者全員に実技を実施してもらう講習形態に戻して講習会を開催した。引き続き配慮を行いできる限りの感染対策を講じて講習会を開催した。

(1) 講習会の開催状況(総括)

		令和6年度			令和5年度			前年度比
		支部主催	その他	計	支部主催	その他	計	
救 急 法	基 礎	5 回	9 回	14 回	4 回	14 回	18 回	77.8 %
	養 成	4	7	11	4	9	13	
	短 期	0	282	282	0	307	307	91.9
	オンライン	3	31	34	7	34	41	
健康生活支援講習	養 成	2	1	3	2	0	2	
	短 期	3	15	18	0	6	6	300.0
	オンライン	0	2	2	0	2	2	
幼 児 安 全 法	養 成	1	0	1	1	0	1	
	短 期	2	71	73	1	60	61	119.7
	オンライン	4	0	4	8	0	8	
水 上 安 全 法	養 成	1	0	1	1	0	1	
	短 期	0	5	5	0	4	4	125.0
雪 上 安 全 法	養 成	0	0	0	0	0	0	
	短 期	4	0	4	0	0	0	
合 計	基 礎	5	9	14	4	14	18	77.8
	養 成	8	8	16	8	9	17	
	短 期	5	373	378	1	377	378	100.0
	オンライン	7	33	40	15	36	51	
総 計		32	423	452	28	436	464	97.4



救急法講習



健康生活支援講習

(2) 養成講習会等の開催状況

【救 急 法】

救急法基礎講習(4時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
日 本 赤 十 字 社 石 川 県 支 部	6月8日	22人	22人
〃	8月3日	25	25
〃	9月7日	25	25
〃	11月9日	14	14
〃	3月1日	18	18
石 川 県 警 察 学 校	6月12日、13日、14日	35	35
〃	11月5日、6日、8日	26	26
金 沢 学 院 大 学 附 属 高 等 学 校	4月16日～6月17日	126	125
金 沢 福 祉 専 門 学 校	12月4日	10	10
第 一 電 機 工 業 協 力 会	9月7日	9	9
〃	9月13日	27	27
金 沢 赤 十 字 病 院	10月22日	17	17
石 川 県 立 田 鶴 浜 高 等 学 校	11月6日	21	21
〃	12月24日	36	36
計 18 回		411	410

救急員養成講習(13時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
日 本 赤 十 字 社 石 川 県 支 部	6月15日～6月16日	5人	5人
〃	8月24日～8月25日	9	9
〃	9月14日～9月15日	12	12
〃	11月23日～11月24日	13	13
警 察 学 校	6月24日、25日、26日	35	35
〃	10月20日、21日、22日	26	26
金 沢 学 院 大 学 附 属 高 等 学 校	6月24日～1月27日	125	123
金 沢 福 祉 専 門 学 校	12月4日～12月6日	10	10
金 沢 赤 十 字 病 院	10月23日～10月24日	6	6
石 川 県 立 田 鶴 浜 高 等 学 校	11月6日～11月8日	21	21
〃	12月24日～12月26日	36	36
計 13 回		298	295

【幼児安全法】

支援員養成講習(14時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
日本赤十字社石川県支部	10月13日、14日	5 人	5 人
計	1 回	5	5

講 習 種 別	開 催 数	受 講 者 数	合 格 者 数
基 礎 講 習	1 4	4 1 1 人	4 1 0 人
養 成 講 習	1 1	2 9 8	2 9 5
計	2 5	7 0 9	7 0 5

【健康生活支援講習】

支援員養成講習(12時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
石 川 県 支 部	7月6日、7日	3 人	3 人
〃	2月22日、23日	6	6
かほく市赤十字奉仕団	5月2日、9日、16日、23日	1 0	9
計	3 回	1 9	1 8

【水上安全法】

救助員Ⅰ養成(21時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
石 川 県 支 部	12月7日、14日、21日	5 人	5 人
計	1 回	5	5

救助員Ⅱ養成(14時間)

主 催 団 体 名	講 習 期 間	受 講 者 数	合 格 者 数
		人	人
計	0 回	0	0

(3) 開催地別講習会開催状況

地区・分区	養成講習						短期講習				
	救急法 (基礎)	救急法	健康生 活支援 講習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法	救急法	健康生 活支援 講習	幼 児 安全法	水 上 安全法	雪 上 安全法
金 沢 市	10 ^回	7 ^回	2 ^回	1 ^回	^回	^回	164 ^回	9 ^回	46 ^回	3 ^回	^回
七 尾 市	2	2					11		2		
小 松 市	1	1					18		3		
輪 島 市											
珠 洲 市											
加 賀 市							4	1			
羽 咋 市	1	1					2	1			
か ほ く 市			1				1	1	1		
白 山 市					1		24	4	8	1	4
能 美 市							2				
野 々 市 市							17	1	7	1	
川 北 町											
津 幡 町							2		5		
内 灘 町							2	1			
志 賀 町											
宝達志水町							1				
中 能 登 町							0				
穴 水 町							2		1		
能 登 町											
オンライン 講 習							34	2	4		
合 計	14	11	3	1	1	0	282	20	77	5	4

(4) 救急法等指導員在籍状況

単位…人（令和7年3月末現在）

	赤 十 字 職 員			ボランティア	合 計
	支部職員	病院職員	センター職員		
救 急 法	6 ^人	11 ^人	2 ^人	98 ^人	117 ^人
健 康 生 活 支 援 講 習	1	7	0	11	19
幼 児 安 全 法	5	4	2	26	37
水 上 安 全 法	0	0	0	11	11
雪 上 安 全 法	0	0	0	15	15
計	12	22	4	161	199

(5) 指導員の研修等

指導員の資質向上を図るため、次のとおり研修会を開催するとともに、本社等が主催する研修会にも参加した。

部 門 別	研 修 会 ・ 講 習 会		
	支 部	本 社	ブ ロ ッ ク
救 急 法	1 ^回	1 ^回	0 ^回
水 上 安 全 法	1	1	0
健 康 生 活 支 援 講 習	1	1	0
幼 児 安 全 法	1	1	0
雪 上 安 全 法	0	1	0
計	4	5	0

10 赤 十 字 奉 仕 団

赤十字奉仕団は、人道・博愛の精神に基づき、各分野で赤十字活動を行うことを目的として結成されたボランティアの組織である。

赤十字奉仕団には、市町等の地域ごとに結成されている「地域奉仕団」、青年や学生で組織されている「青年奉仕団」、特殊技術を持つ人たちが中心となって組織された「特殊奉仕団」がある。

石川県支部に登録されている赤十字奉仕団は、次のとおりである。

(令和7年3月末現在)

種 別	団 数	団 員 数
地 域 赤 十 字 奉 仕 団	5 1 団	2,4 2 3 人
青 年 赤 十 字 奉 仕 団	3	1 5 0
特 殊 赤 十 字 奉 仕 団	6	2 6 7
計	6 0	2,8 4 0

〔赤十字奉仕団の主な活動内容〕

- ① 会員増強に関する奉仕活動
社資募集
- ② 災害救護活動
救援物資の輸送・配分、被災者等への炊き出し、応急救護の支援等
- ③ 青少年赤十字にかかわる活動
研修会の援助
- ④ 献血にかかわる活動
献血推進キャンペーンの実施、献血者の受付及び案内
- ⑤ 救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法に関する活動
各種講習会での指導
- ⑥ 赤十字病院での活動
身の回りの世話、話し相手、患者の受付と案内、衛生材料づくり
- ⑦ 障害者にかかわる活動
朗読サービス、点訳、手話通訳、通学・通勤の介助送迎
- ⑧ 社会福祉施設での活動
授乳・食事の介助、行事の手伝い、話し相手
- ⑨ 国際支援に関する奉仕活動

(1) 地域赤十字奉仕団の結成状況

(令和7年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
十一屋校下赤十字奉仕団	村田保夫	S49.12.8	22 ^人	11 ^人	33 ^人
馬場赤十字奉仕団	塩原吉成	S50.6.10	31	1	32
大徳赤十字奉仕団	田村政博	S51.7.16	46	26	72
三馬赤十字奉仕団	若松恵美子	S51.7.17	19	33	52
小立野赤十字奉仕団	高野健三	S51.8.17	35	35	70
金石赤十字奉仕団	越田武彦	S51.10.12	43	3	46
輪島市赤十字奉仕団	下善裕	S52.6.13	3	18	21
瓢箪町地区赤十字奉仕団	中川一	S52.7.20	39	3	42
新豎赤十字奉仕団	田中晋介	S52.11.8	1	6	7
森山赤十字奉仕団	谷村憲治	S53.7.8	3	8	11
富樫赤十字奉仕団	竹村裕樹	S53.8.1	4	16	20
小松市赤十字奉仕団	村西卓	S54.6.19	1	255	256
安原地区赤十字奉仕団	中橋功雄	S54.7.19	1	12	13
中村町校下赤十字奉仕団	増本志郎	S55.3.9	29	3	32
戸板赤十字奉仕団	吉田和夫	S55.9.1	48	47	95
野町赤十字奉仕団	宮本哲一	S55.10.16	38	2	40
鞍月赤十字奉仕団	野村靖之	S55.11.17	24	8	32
押野赤十字奉仕団	竹田良雄	S56.5.30	16	39	55
新神田校下赤十字奉仕団	山岸正光	S57.7.10	3	0	3
長坂台校下赤十字奉仕団	高桑裕幸	S58.7.18	33	7	40
栗崎校下赤十字奉仕団	西澤寛一	S58.9.9	16	25	41
額校下赤十字奉仕団	井山望	S59.10.18	5	18	23
西南部校下赤十字奉仕団	中川俊一	S59.11.13	17	18	35
三和校下赤十字奉仕団	橋本律子	S60.3.23	0	43	43
七尾市赤十字奉仕団	芋塚隆彦	S61.9.29	4	9	13
加賀市赤十字奉仕団	東本喜美枝	S62.3.3	0	23	23
西校下赤十字奉仕団	池田恵子	S62.10.28	0	18	18
内灘町赤十字奉仕団	一枚田美子	S63.11.10	2	22	24
米丸校下赤十字奉仕団	山下正美	H1.5.15	32	4	36
米泉校下赤十字奉仕団	東昭男	H2.7.9	12	10	22
松任ふれあい赤十字奉仕団	谷健一	H5.9.2	5	45	50
白山市美川まつぱっくり赤十字奉仕団	新千鶴子	H5.10.8	0	51	51
四十万校下赤十字奉仕団	大学正治	H6.6.20	9	18	27
崎浦地区赤十字奉仕団	杉瀬敏夫	H6.6.27	45	3	48
扇台校下赤十字奉仕団	渡辺俊晃	H6.11.27	9	19	28
金沢川北赤十字奉仕団	木谷博一	H8.7.6	22	4	26
志賀町赤十字奉仕団	山本洋子	H8.8.20	6	155	161
能美市赤十字奉仕団	田中策次郎	H9.5.24	4	15	19
津幡町赤十字奉仕団	西田伸幸	H11.8.20	7	23	30
小坂校下赤十字奉仕団	西川義博	H13.7.22	50	16	66
弥生校下赤十字奉仕団	石田善松	H14.4.27	5	18	23
宝達志水町赤十字奉仕団	柏崎三代治	H15.3.17	20	66	86
かほく市赤十字奉仕団	藤田すみ子	H16.5.28	9	224	233
菊川赤十字奉仕団	寺本良之	H16.7.24	14	23	37
能登町赤十字奉仕団	的場清一	H17.5.24	2	91	93
白山ろく赤十字奉仕団	河野泰治	H18.4.17	3	24	27
鶴来ふれあい赤十字奉仕団	金丸和弘	H18.4.24	3	13	16
穴水町赤十字奉仕団	大島秀文	H21.11.5	9	11	20
珠洲市赤十字奉仕団	松原了啓	H21.12.11	4	23	27
羽咋市赤十字奉仕団	柳澤豊志	H22.8.26	60	28	88
夕日寺校下赤十字奉仕団	中川一成	R1.11.2	16	1	17
計 51団			829	1594	2423

(2) 青年赤十字奉仕団の結成状況

(令和7年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県青年赤十字奉仕団	山田 彩千乃	S38. 4. 1	10人	16人	26人
金沢星稜大学学生赤十字奉仕団	舟田 彩乃	H11. 4. 13	5	46	51
北陸大学学生赤十字奉仕団	田原 真柚子	H30. 4. 13	13	60	73
計	3団		28	122	150

(3) 特殊赤十字奉仕団の結成状況

(令和7年3月末現在)

奉仕団名	委員長名	結成年月日	団員数		
			男性	女性	計
石川県赤十字安全法奉仕団	村中 洋	S36. 8. 26	45人	62人	107人
石川県無線赤十字奉仕団	古屋 栄彦	S42. 3. 20	34	3	37
石川県赤十字雪上救護奉仕団	永井 敏昌	S53. 12. 2	7	0	7
石川県赤十字救護奉仕団	荒木 覚	S59. 6. 28	13	3	16
青少年赤十字賛助奉仕団	平田 和伸	H15. 5. 2	9	8	17
石川県柔道整復師会赤十字奉仕団	二ッ谷 剛彦	H22. 4. 25	80	3	83
計	6団		188	79	267

(4) 赤十字奉仕団石川県支部委員会の開催

- ア 総会 令和6年4月25日(木) 石川県赤十字血液センター 出席者 37名
イ 役員会
第1回 令和6年4月25日(木) 石川県赤十字血液センター
第2回 令和6年7月23日(火) 日本赤十字社石川県支部
ウ 機関紙発行 「赤十字奉仕団だより」 令和6年10月31日 第47号発刊
令和7年3月31日 第48号発刊

(5) 赤十字ボランティア研修会の開催

- ア 基礎研修会
令和7年1月19日(日) 石川県赤十字血液センター 参加者 22名

(6) 赤十字奉仕団による共働作業の活動

- ア 「赤十字のつどい」の開催
「令和6年能登半島地震救援」をテーマとして各地区奉仕団が共同でチャリティーバザーを実施した。
・加賀地区 チャリティーバザー
令和6年6月2日(日)根上総合文化会館
・金沢地区 チャリティーバザー
令和6年8月4日(日)アルプラザ金沢店
・能登地区 令和6年能登半島地震の影響により中止
バザー収益金で集まった564,108円は、日本赤十字社石川県支部へ寄託され、令和6年能登半島地震災害義援金として活用した。

イ 肢体不自由児水泳教室に対する協力

石川県肢体不自由児協会が実施した身体障害児水泳療育訓練において、赤十字安全法奉仕団の団員が指導にあたった。

ウ 金沢百万石まつりに対する協力

百万石行列において、特殊奉仕団4団(安全法、無線、青少年賛助、柔道整復師会)や、青年奉仕団2団(金沢星稜大学、北陸大学)のほか、青少年赤十字加盟高等学校6校(金沢二水、金沢伏見、金沢辰巳丘、県立工業、翠星、松任)の合計118名が協力し、観客や参加者に対する救護や、迷子の搜索活動にあたった。

エ 金沢マラソン2024に対する協力

金沢マラソンにおいて、特殊奉仕団2団(安全法、無線)や、青年奉仕団2団(星稜大学、北陸大学)、4奉仕団82名がAED隊として救護活動にあたった。



ボランティア基礎研修



金沢マラソン2024 AED隊

(7) 奉仕団員による支援活動

令和6年能登半島地震発災直後からの各種支援活動に引き続き、被災地避難所・仮設住宅における健康増進やコミュニティー形成支援のための活動を令和6年4月から行ってきた。

6月には、志賀町内の仮設住宅においてグリーンカーテンを住民と共同で設置し、合わせて熱中症教室も開催するという赤十字では全国初の取り組みを行った。

9月以降は、赤十字ボランティアを全国より募集し、ニーズをいただいた市町の避難所・仮設住宅にて継続して支援活動を行った。令和7年3月までの期間、全国10県の支部からボランティア派遣があった。

その他にも12月には志賀町児童館で愛知県支部の赤十字ボランティアとかほく市赤十字奉仕団が、共同で炊き出しを行うなど、県を跨いだ赤十字奉仕団が協働した。



避難所でのリラクゼーション提供（輪島市）



仮設住宅でのグリーンカーテンづくり（志賀町）



キッチンカーでの炊き出し 石川×愛知ボランティアの協働（志賀町）



ボランティア派遣（岐阜県支部）



ボランティア派遣（香川県支部）

(8) 『ACTION！無病息災プロジェクト』

支部では令和4年度から、地域住民の健康増進を目的とした事業『ACTION！無病息災プロジェクト』を実施している。令和4年4月からはかほく市奉仕団、令和5年4月からは鶴来ふれあい奉仕団をモデル奉仕団として、遊休農地を活用した野菜づくりや、ノルディック・ウォーキング教室の開催などに取り組んでいる。



ノルディック（かほく）



野菜づくり（鶴来）

11 青少年赤十字

青少年赤十字活動は、児童・生徒が赤十字の精神である人道・博愛の心を理解体得し、世界の平和と人類の福祉向上に貢献出来るよう、日常の学校生活の中で望ましい人格と精神を自ら形成することを目的とした活動である。

「健康・安全」「奉仕」「交際親善・理解」の3つを実践目標に掲げ、メンバー自身が「気づき」「考え」「実行する」という取り組みを行っている。

(1) 青少年赤十字の加盟校(園)の状況

区 分	令和6年度(園・校)	令和5年度(園・校)	増減(園・校)
幼稚園・保育園・こども園	2	2	0
小 学 校	104	102	2
中 学 校	46	42	4
高等学校・特別支援学校	33	33	0
計	185	179	6

幼稚園・保育園・こども園			小 学 校			中 学 校			高等学校・特別支援学校		
番号	市 町 名	園	番号	市 町 名	学 校 名	番号	市 町 名	学 校 名	番号	市 町 名	学 校 名
1	七 尾 市	七尾みなとこども園	1	加 賀 市	片 山 津	1	小 松 市	丸 内	1	小 松 市	松 立
2	〃	東みなとこども園	2	〃	湖 北 見	2	〃	松 国 陽	2	〃	小 松 市 明 峰
			3	〃	作 庄	3	〃	国 府	3	〃	小 松 大 谷
			4	〃		4	白 山 市	松 任	4	〃	小 松 井
			5	小 松 市	稚 安 松	5	〃	北 光	5	能 美 市	寺 任
			6	〃	宅 丸	6	〃	笠 野	6	白 山 市	松 翠
			7	〃	犬 丸	7	〃	笠 野	7	〃	翠 任
			8	〃	荒 屋	8	〃	笠 野	8	金 沢 市	金 沢 錦 丘
			9	〃	苗 代	9	〃	北 鶴	9	〃	金 沢 泉 丘
			10	〃	蓮 寺	10	〃	鳥 越	10	〃	金 沢 二 水
			11	〃	今 江	11	〃	白 嶺	11	〃	金 沢 伏 見
			12	〃	串 江	12	野 々 市 市	野 々 市	12	〃	金 沢 辰 巳
			13	〃	日 符	13	金 沢 市	城 兼	13	〃	金 工 北 業
			14	〃	粟 津	14	〃	鳴 六	14	〃	金 沢 向 陵
			15	〃	木 津	15	〃	高 和	15	〃	金 沢 陽 院
			16	〃	矢 野	16	〃	長 岡	16	〃	金 沢 学 校
			17	〃	月 田	17	〃	浅 野	17	〃	星 ろ
			18	〃	那 津	18	〃	芝 野	18	〃	いしかわ特別支援
			19	〃	中 海	19	〃	西 南	19	〃	医王特別支援
			20	〃	松東みどり学園(小学部)	20	〃	犀 部	20	〃	明和特別支援
			21	〃	東 陵	21	〃	長 町	21	〃	
			22	〃	能 美	22	〃	森 芳	22	津 幡 町	津 幡
			23	〃		23	〃	高 尾	23	内 灘 町	内 灘
			24	白 山 市	松 旭	24	〃	北 緑	24	羽 咋 市	羽 咋
			25	〃	湊 南	25	〃	大 鳴	25	七 尾 市	七 尾 東
			26	〃	朝 日	26	〃	額 徳	26	〃	七 尾 雲
			27	〃	明 光	27	〃	清 泉	27	〃	七 尾 鶴 浜
			28	〃	広 越	28	〃	内 金	28	〃	七 尾 学 園
			29	〃	鳥 松	29	〃	金 沢 錦	29	〃	七 尾 特別支援学校
			30	〃	白 蝶	30	〃	紫 泉	30	輪 島 市	輪 島
			31	〃		31	〃	宇 ノ 気	31	能 登 町	能 登
			32	〃		32	〃	津 幡 町	32	珠 洲 市	飯 田
			33	〃		33	〃	羽 咋 市	33	穴 水 町	穴 水
			34	〃		34	〃	宝 達 志 水 町			
			35	野 々 市 市	御 富 野 原	35	か ほ く 市	宇 ノ 気			
			36	〃	富 野 原	36	津 幡 町	津 幡			
			37	〃	菅 野	37	羽 咋 市	羽 咋			
			38	〃	菅 野	38	宝 達 志 水 町	宝 達			
			39	金 沢 市	泉 十 野	39	志 賀 町	富 来			
			40	〃	犀 立	40	七 尾 市	七 尾 東			
			41	〃	小 立	41	〃	七 尾 東			
			42	〃	中 央 芳 齋 分 校	42	〃	七 尾 香			
			43	〃	長 明 田	43	〃	中 能 登			
			44	〃	明 成	44	〃	中 能 登			
			45	〃	小 千 野	45	〃	中 能 登			
			46	〃	浅 野	46	〃	中 能 登			
			47	〃	鞍 月						
			48	〃							
			49	〃							
			50	〃							

			51	〃	大	野	町					
			52	〃	大	野	徳					
			53	〃	大	野	板					
			54	〃	大	野	野					
			55	〃	大	野	馬					
			56	〃	大	野	樫					
			57	〃	大	野	三					
			58	〃	大	野	額					
			59	〃	大	野	上					
			60	〃	大	野	園					
			61	〃	大	野	寺					
			62	〃	大	野	谷					
			63	〃	大	野	立					
			64	〃	大	野	小					
			65	〃	大	野	木					
			66	〃	大	野	三					
			67	〃	大	野	南					
			68	〃	大	野	西					
			69	〃	大	野	米					
			70	〃	大	野	四					
			71	〃	大	野	十					
			72	〃	大	野	西					
			73	〃	大	野	泉					
			74	〃	大	野	見					
			75	〃	大	野	緑					
			76	津	英	野	台					
			77	幡	萩	栗	崎					
			78	内	向	ヶ	丘					
			79	灘	鶴	根	布					
			80	〃	大							
			81	宝	押	水	第					
			82	達	宝	一	達					
			83	志	相	見	川					
			84	水	樋	雄						
			85	町	志							
			86	羽	羽	昨	昨					
			87	咋	粟	ノ	保					
			88	市	瑞	北	穂					
			89	〃	西		台					
			90	〃	邑		知					
			91	志	志		賀					
			92	賀	鹿		西					
			93	中	小	丸	山					
			94	能	山		王					
			95	登	天	神	山					
			96	町	朝		日					
			97	七	東		湊					
			98	尾	石		崎					
			99	市	和		倉					
			100	〃	田	鶴	浜					
			101	〃	中		島					
			102	〃	能	登	島					
			103	輪	河	原	田					
			104	島	門	前	西					
計	2	園	計	104	校	計	46	校	計	33	校	

(2) 指導体制の充実・強化

ア 会議等

- (ア) 青少年赤十字指導者協議会総会・研修会
 - 令和6年5月27日(月) 日赤石川県支部(web) 21人参加
 - 現地・zoom配信受講 30人参加
 - you tube動画視聴
- (イ) 青少年赤十字指導者協議会役員研修会
 - 令和7年3月3日(月) 日赤石川県支部 9人参加
- (ウ) 青少年赤十字指導者研修会
 - 令和7年3月3日(月) 日赤石川県支部 23人参加
- (エ) 第3ブロック青少年赤十字指導者協議会会長及び支部担当者研究会
 - 令和6年6月14日(金) 日赤石川県支部(web) 2人参加
- (オ) 全国青少年赤十字指導者協議会総会
 - 令和6年7月12日(金) 日赤本社 1人参加

(3) メンバーの活動状況

ア 会議等

(ア) 県高校JRC協議会

第1回 令和6年4月20日(土)

金沢学院大学附属高等学校

13校39人参加

第2回 令和6年9月7日(土)

石川県赤十字血液センター

9校84人参加

(イ) 第45回石川県高等学校JRC大会

令和6年5月31日(金) いしかわ子ども交流センター 13校233人参加

(ウ) 第23回石川県高等学校文化連盟JRC部赤十字救急法競技大会

令和6年9月21日(土) 石川県赤十字血液センター 9校84人参加

(4) 国際理解・親善活動

ア 「令和6年能登半島地震災害」及び「令和6年9月能登半島大雨災害」街頭募金

令和6年12月8日(日) 金沢市内

6校45人参加

(5) ボランティア活動

1円玉募金

児童館や福祉施設の訪問

清掃活動

等

(6) 普及活動

ア 高文連JRC部への活動助成

イ 活動紹介機関紙「石川青少年赤十字ニュース」の配布(県内全学校〈小・中・高・特別支援学校〉)

(7) 指導用教材資料の貸し出し

防災教育教材、紙芝居、ネパールの水がめ、地雷模型、地雷関係パネル、松葉杖、盲人用杖、アイマスク、義足など



赤十字救急法競技大会



「令和6年能登半島地震災害」及び
「令和6年9月能登半島大雨災害」街頭募金

12 国 際 活 動

日本赤十字社は、赤十字国際委員会、国際赤十字・赤新月社連盟と緊密な連携のもとに、現在も世界の各地で起きている武力紛争や地震等の自然災害による犠牲者等の救援のため、物資や資金の援助及び開発協力要員の派遣を行っている。

石川県支部では、日本赤十字社の活動を支援するとともに、第3ブロック支部共同事業として、「アジア・大洋州給水・衛生キット支援(H22年～)」、「東アフリカ地域3カ国保健強化事業(H30～)」及び「レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業(R5～)」に対して援助を行った。

また、被災者等に対する義援金の受付を行うほか、赤十字奉仕団員による「NHK海外たすけあい」街頭募金活動を実施し、本社へ送金した。

さらに、令和3年10月に長崎県から高校生平和大使を招いて七尾市の能登演劇堂で開催された「愛と平和の祭典2021in NANA O」をきっかけとして始めた、愛と平和のワンコイン募金を実施し、国際支援事業や災害救護活動、青少年赤十字活動等に活用した。

日赤第3ブロック支部 共同事業内容

1. レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業

レバノン赤十字が全国9州の一次医療サービス向上を目的に貧困層が多く医療ニーズが高い19のPHC(プライマリーヘルス・センター：予防や基本的な治療を行う施設)の修繕やサービスの改善する事業を支援する。

2. 東アフリカ地域3カ国(ブルンジ・他2カ国)保健強化事業

自然災害や紛争、テロが頻発する上、保健指標の低さや貧困率の高さ等、さまざまな課題を抱えた同地域において、住民主体で地域保健を強化する活動を支援する。

3. アジア・大洋州給水・衛生キット支援

洪水やサイクロンなどの災害が増加している同国において、迅速に給水・衛生活動が展開できるよう、国際赤十字・赤新月社連盟が開発した「給水・衛生キット」を配備し、スタッフの研修を実施する。

日赤第3ブロック支部 共同事業実績額

年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)	年度	支 援 内 容	3ブロック支援額 (円)	当支部負担額 (円)
R1	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R4	シリア難民支援事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000
R2	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R5	レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域2カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000
R3	シリア難民支援事業	8,000,000	400,000	R6	レバノン プライマリーヘルス・スケールアップ事業	8,000,000	440,000
	東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	300,000		東アフリカ地域3カ国保健強化事業	6,000,000	330,000
	アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	300,000		アジア・太平洋衛生キット支援	6,000,000	330,000
	計	20,000,000	1,000,000		計	20,000,000	1,100,000

13 医 療 事 業

高齢化社会が進む中、近年は厳しい内容が続く診療報酬改定であるが、令和6年度の診療報酬改定は、当院のような中規模急性期病院にとっては非常に厳しい内容となっており、県内においても当院と同様な規模・機能を持つ病院の中には、急性期1から急性期2へのレベルダウンを余儀なくされ、診療報酬を削減されるケースが散見されている。

このような状況の中、当院においては令和5年度に指定を受けた「紹介受診重点医療機関」として、積極的な紹介患者の受入れとともに、かかりつけ医への逆紹介を推進するほか、救急患者の受入れ強化や、それに伴う手術件数の増加を図り、入院患者数や診療単価の向上に加え、急性期1の維持を目指してきたところである。

これらの目標達成に向け、全職員が尽力した結果、紹介患者数や救急車受入件数の増加に加え、外科や整形外科での手術件数が増加したことで入院患者も増加し、これら全ての項目でコロナ禍前の令和元年度実績を上回る成果をあげるとともに、年間通して急性期1を維持できたことで医業収益は前年比7.3%増と大きく改善することができた。

一方、医業費用においては、働き方改革や処遇改善等による給与費のほか、委託費などの人件費増加に加え、物価高騰による材料費の増加や不安定な世界情勢に伴う光熱費の増加などが重なり、収益面は改善したものの支出についても前年比3.4%増と経営状況を悪化させる結果となったが、医療事業損益における本業部分では、前年度と比較し約1億7千万円の改善を図ることができ、また、非キャッシュ性である退職給付債務の会計処理により当期利益は大きく改善することとなった。しかし、実際には、まだまだ赤字経営が続いているのが実情である。

その様な状況を打破する方策として、当院においては、徐々にではあるが成果が表れている「紹介受診重点医療機関」としての取り組みを更に明確に打ち出し強固なものとするすることで、より重症度の高い患者を獲得し急性期1を堅守するとともに、コスト削減についても重要課題として捉え、全職員が一丸となり経営改善に向け努力を続けていきたいと考えている。

令和6年度の主な事業

1. 地域医療との連携強化

- (1) オープン・クリニカルカンファレンス
〔4/19(金)、7/19(金)、11/15(金)、3/7(金) 当院及びwebによるハイブリッド開催〕
- (2) 開放病床運営委員会・地域医療連携懇話会〔10/22(火) 金沢東急ホテル〕

2. 診療機能の向上及び維持

- (1) 手術室用内視鏡システムの更新
- (2) 経尿道的水蒸気治療装置の新規導入

3. 医療機器整備

超音波内視鏡、生化学自動分析装置、皮膚灌流圧測定装置 他24点

令和6年度における患者数等は次のとおりである。

(1) 患 者 数

科別	年度	令和6年度		令和5年度		対前年度増減	
		総 数	1 日平均	総 数	1 日平均	総 数	1 日平均
入 院		70,742 人	193.8 人	64,324 人	175.7 人	6,418 人	18.1 人
(新入院患者数)		3,854	10.6	3,640	9.9	214	0.6
外 来		119,425	493.5	117,679	482.3	1,746	11.2

(2) 診療科別患者数

(入院)

科別	年度	令和6年度		令和5年度		対前年度増減	
		延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均
内 科		36,817 人	100.9 人	33,360 人	91.1 人	3,457 人	9.7 人
外 科		5,568	15.3	5,471	14.9	97	0.3
整 形 外 科		11,445	31.4	10,084	27.6	1,361	3.8
脳 外 科		1,562	4.3	1,707	4.7	△ 145	△ 0.4
眼 科		465	1.3	470	1.3	△ 5	△ 0.0
産 婦 人 科		159	0.4	147	0.4	12	0.0
小 児 科		236	0.6	238	0.7	△ 2	△ 0.0
皮 膚 科		1,182	3.2	679	1.9	503	1.4
放 射 線 科		—	—	—	—	—	—
麻 酔 科		—	—	15	0.0	△ 15	△ 0.0
リ ハ ビ リ 科		12,578	34.5	11,360	31.0	1,218	3.4
泌 尿 器 科		730	2.0	793	2.2	△ 63	△ 0.2
計		70,742	193.8	64,324	175.7	6,418	18.1

(外来)

科別	年度	令和6年度		令和5年度		対前年度増減	
		延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均	延患者数	1 日平均
内 科		51,378 人	212.3 人	50,558 人	207.2 人	820 人	5.1 人
外 科		8,199	33.9	8,369	34.3	△ 170	△ 0.4
整 形 外 科		6,737	35.1	6,684	34.6	53	0.5
脳 外 科		1,692	7.0	1,803	7.4	△ 111	△ 0.4
眼 科		4,731	19.5	5,089	20.9	△ 358	△ 1.4
産 婦 人 科		3,972	16.4	4,513	18.5	△ 541	△ 2.1
小 児 科		2,863	11.8	2,848	11.7	15	0.1
皮 膚 科		4,901	20.3	4,976	20.4	△ 75	△ 0.1
放 射 線 科		213	0.9	194	0.8	19	0.1
麻 酔 科		483	2.0	477	2.0	6	0.0
リ ハ ビ リ 科		26,691	110.3	24,739	101.4	1,952	8.9
泌 尿 器 科		7,565	31.3	7,429	30.4	136	0.9
計		119,425	493.5	117,679	482.3	1,746	11.2

(3) 診療単価等

科別	年度	令和6年度	令和5年度	対前年度増減	
				金 額	率
患者1人1日 当たりの収入	入 院	47,187 円	46,809 円	378 円	0.8 %
	外 来	13,951 円	13,900 円	51 円	0.4 %
病 床 利 用 率		79.8 %	72.3 %	—	—
平 均 在 院 日 数		17.4 日	16.7 日	—	—
再 掲 (急 性 期 病 床)		10.2 日	11.1 日	—	—

14 医療・保健等の社会事業

金沢赤十字病院においては、病院経営の重要な部分として、医療・保健衛生等の社会事業を積極的に展開しているが、令和6年度における活動状況は、次表のとおりである。

活動の種別	延対象者数	活動の種別	延対象者数
糖 尿 病 教 室	91 人	すこやか検診	637 人
栄 養 指 導	1,184	一 般 検 診	3,094
健 康 講 座	0	成 人 病 健 診	4,696
訪 問 看 護	2,696	日 帰 り ド ッ ク	751
訪 問 リ ハ ビ リ	1,972	宿 泊 ド ッ ク	24

15 血 液 事 業

石川県では、県民の皆さまのご理解とご協力のもと、安心・安全な輸血医療を支える血液事業に継続して取り組んでまいりました。令和6年度は、年始に発生した能登半島地震により、県内各地で甚大な被害が生じ、医療体制や地域の暮らしにも大きな影響が残る一年となりました。このような厳しい状況にもかかわらず、多くの皆さまに献血へのご協力をいただき、関係機関と連携して血液の安定供給を確保することができました。心より感謝申し上げます。

今後においても、血液を必要とするすべての県民に対し、安定的かつ安全な輸血医療の確立を目指し、引き続き信頼される血液事業の推進に全力を尽くしてまいります。

(1) 安全な血液製剤の安定供給

① 需給管理の充実

医療機関との連携や情報共有の充実に努め、血液製剤の需給予測の精度向上を図るとともに、需要に応じた適切な採血を推進した。

また、医療現場のニーズに対応できる質の高い需給管理を行うため、職員の情報・意識共有の仕組みづくりや教育を推進した。

② 安全性の確保

血液製剤を保管する冷凍・冷蔵設備や運搬車両等設備機器の適切かつ確実な管理運用に努め、故障・緊急時の対応や安全運行等に関する教育訓練を徹底し、常に安全で高品質な血液製剤を供給した。

③ 血液製剤の適正使用の推進

石川県合同輸血療法委員会の活動や石川センターでの研修を通じて、医療機関への情報提供や技術指導の充実に努め、適正使用の一層の推進を図った。

④ 災害時における体制の充実

特に奥能登地方の医療機関に対し、輸血用血液製剤を安定的に供給できる体

制の確保、人員対応、施設等の利用調整を継続して行った。東海北陸ブロック地域内において高い確率で発生が危惧されている東海・東南海地震等の大震災に対しても、危機管理ガイドライン等に基づき、ブロック内全血液センターと連携し、合同で災害対応訓練を実施、交通インフラの確保等手順の再確認、訓練の成果や改善点を確認した。また、石川県防災総合訓練には日本赤十字社石川県支部、金沢赤十字病院等と連携のうえ参加し緊急時の対応に備えた。

(2) 献血者の安定的確保

① 普及啓発活動

- ア 献血の必要性を広く周知し、献血協力のきっかけとなるよう、様々な年代層をターゲットとした各種献血キャンペーンを展開した。
- イ 若年層にアピールし、血液事業に共感と興味を持ってもらえる情報誌等印刷物の発行に努めた。
- ウ ホームページの一層の活用を図り、求められる情報がリアルタイムでスムーズかつ正確に閲覧できるよう、管理の徹底や内容の充実に努めた。

② 若年層献血者確保対策

- ア 県や教育委員会の協力のもと、主に高校生や大学生を対象として、献血の基礎知識を伝え献血への協力意欲を醸成するため、献血セミナーを年間22回開催した。さらに今年度は対象を広げ、新たに中学生を対象とした献血セミナーも年間3回開催した。
- イ 医療や福祉を学ぶ高校、看護学校、専門学校の学生を対象に、授業の中で献血の必要性や血液事業への理解、研修等への参加を呼び掛けた。
- ウ 移動採血の渉外活動において、事業主や献血担当者に対し若年層献血者確保の重要性を丁寧に説明し、協力を求め、若年層従業員への呼びかけ拡大、強化に努めた。
- エ 若年層のニーズに沿った献血記念品の選定や、若年層限定献血キャンペーンなど、若年層が献血に関心を寄せるきっかけとなるような企画や広報を積極的に展開した。
- オ 石川県学生献血推進委員会と協働することにより、同委員会の一層の活性化を図り、取り組みの一つである同世代への献血推進活動をサポートした。
- カ 大学・短期大学等の教職員と学生献血推進ボランティア、石川県赤十字血液センター職員で構成する石川県学生献血推進連絡会による学生献血推進ボランティアの活動への支援を強化した。
- キ ブロック血液センターや管内地域センターと情報・意見交換を行い、先進的な事例を検証して取り入れ、効果的な若年層献血者確保対策を実践した。

③ 献血登録者の拡充

- ア 継続的な献血協力を推進するために、メール及びLINEで献血者にこまめな依頼要請や情報提供を行うとともに、「ラブラッド」会員(アプリ・Web)新規会員の確保に努め、年度末会員数が28,400人を超えた。
- イ 血小板製剤の県内自給を目指し、医療機関の要望に確実に応えられるよう、血小板成分献血の要請応諾者拡充に努めた。また、HLA型の登録を推進し、高品質な血小板製剤の供給に努めた。

ウ 献血ルームをはじめ、移動採血でも約99%の会場で献血の事前予約枠を設け、献血者の利便性を向上するとともに安定的かつ継続的な血液の確保に努めた。

④ 献血者の安全確保

ア 献血時におけるインフォームドコンセントを徹底し、献血者の健康状態に十分配慮した採血に努めた。

イ V V R等採血副作用の予防に細心の注意を払うとともに、副作用が発生した場合の措置について教育訓練を徹底した。

ウ 採血課職員の日本輸血・細胞治療学会が認定する「アフエレーシスナース（成分採血認定看護師）」の認定取得に積極的に取り組んだ。

⑤ 献血者への健康管理サービス

低ヘモグロビン等により献血できなかった献血申込者への栄養士による健康相談やB型肝炎及びC型肝炎ウイルス検査陽性献血者への健康相談を実施し、献血不適格者への健康指導に努めた。

⑥ 災害時における献血の確保

ア 出張所、移動採血車の展開

災害発生地域においても、出張所や移動採血車を迅速に展開し、献血募集を開始した。

イ 緊急献血キャンペーンの実施

緊急献血キャンペーンを実施し、血液供給を促進した。その際、マスメディアやSNSを活用して、有用性を広く周知した。

ウ 事前の血液確保

常時、十分な血液在庫の確保に努める。また、他の地域からの補助や輸送体制をシュミレーションし整えておく。

エ 医療機関との連携強化

献血組織と医療機関で災害発生時の血液需要や供給状況を共有し、協力して効果的な対応を行った。

(3) 効率的な事業運営

① 400mL献血の推進

医療機関のニーズに応じた供給を行うため、全血献血は400mLを基本とし、相対的に使用頻度が少ない200mL献血を抑制したところ、全血献血に占める400mL献血の割合が約94%となった。

② 移動採血1稼働あたりの採血効率の向上

献血実施企業団体やライオンズクラブ等の献血協力団体との連携を強化し、1稼働あたりの採血数を増やし、必要な血液量を確保するなど採血効率の向上に努めた。

③ 献血ルームの事業改善

ア 献血ルームの全血献血の向上に取り組むとともに、血液製剤の需給状況を踏まえた適切な成分献血者確保に努めた。

- イ 献血推進・予約システム(CMS)を活用した予約献血を推進し、献血者の利便性向上に努めた
- ウ 血小板製剤の献血後3日運用を促進するため、曜日別の適切な採血数を設定し、計画に沿った採血数の確保に努めた。

④ 成分献血の効率化

- ア 血小板成分採血において、分割血小板採取の比率向上を図り、採取率60.0%確保した。
- イ 循環血液量に応じた最大限の血漿確保を推進し、血漿成分献血における1本あたりの平均採取血漿量は581.4mL、血小板(血小板+血漿)採血における1本あたりの原料血漿採取量は、分割製造用221.5mL、非分割製造用322.4mLを確保した。

⑤ 供給体制の効率化

臨時配送便を削減するための医療機関との協議を進め、定期便率の向上を図った。

また、輸血用血液製剤の受発注における過誤発生の防止を目的に、インターネットで受発注するWEB発注システムの導入を推進し、現在受発注の8割以上がWEB発注システムを利用したものとなった。

(4) 持続可能な血液事業(事業の活性化)の推進

① 人材育成・人事交流

職員の日本赤十字社石川県支部及びブロック血液センターとの職員交流及び統一的な研修体制の整備に努め、職員の能力向上を促進した。

② 研修教育機能の充実

ブロックセンター石川製造所と連携し、血液事業全体を研修できる血液センターとして、研修医の受け入れ及び衛生看護科の学生については研修を実施することにより、血液事業の新しい担い手や安全な輸血医療の担い手を引き続き確保・拡充した。

③ 経営改善の取組と事業運営の活性化

血液事業特別会計の継続的な財政運営を図るため、職員一丸となって「カイゼン」活動に積極的に取り組むとともに、事業評価結果に基づき事業の質的向上及び事業の効率化を推進し、事業運営の活性化を図った。

(5) 造血幹細胞事業の推進

石川県や県内ボランティア団体(いしかわ骨髄バンク推進・はとの会)と連携して、骨髄バンク登録の支援に努め、登録者の増加を図った。

(6) 献血・血液製剤供給状況等(令和6年度)

① 市町別献血状況(令和6年度)

市町別	献血目標				献血者数実績				達成率
	200mL	400mL	成 分	合 計	200mL	400mL	成 分	合 計	
金 沢 市	143 ^人	6,170 ^人	— ^人	6,313 ^人	306 ^人	6,169 ^人	— ^人	6,475 ^人	102.6%
七 尾 市	17	690	—	707	17	622	—	639	90.4
小 松 市	70	2,640	—	2,710	123	2,685	—	2,808	103.6
輪 島 市	9	200	—	209	4	52	—	56	26.8
珠 洲 市	4	120	—	124	4	52	—	56	45.2
加 賀 市	26	930	—	956	42	988	—	1,030	107.7
羽 咋 市	9	360	—	369	7	409	—	416	112.7
か ほ く 市	14	470	—	484	24	506	—	530	109.5
白 山 市	90	3,370	—	3,460	92	3,717	—	3,809	110.1
能 美 市	18	710	—	728	37	746	—	783	107.6
野々市市	50	1,140	—	1,190	100	1,192	—	1,292	108.6
川 北 町	4	180	—	184	6	226	—	232	126.1
津 幡 町	14	520	—	534	57	500	—	557	104.3
内 灘 町	3	90	—	93	5	83	—	88	94.6
志 賀 町	17	560	—	577	20	577	—	597	103.5
宝達志水町	3	60	—	63	3	81	—	84	133.3
中能登町	3	230	—	233	5	286	—	291	124.9
穴 水 町	3	50	—	53	1	61	—	62	117.0
能 登 町	3	100	—	103	4	69	—	73	70.9
小 計	500	18,590	—	19,090	857	19,021	—	19,878	104.1
く ら つ き	100	4,260	8,800	13,160	265	4,098	8,370	12,733	96.8
ル・キューブ	250	4,200	9,100	13,550	566	4,017	8,646	13,229	97.6
合 計	850	27,050	17,900	45,800	1,688	27,136	17,016	45,840	100.1
令和5年度合計	790	25,910	15,140	41,840	1,425	26,316	16,604	44,345	106.0

② 献血者の内訳(令和6年度)

【種類別・性別】

種類区分	性別	献血者数
200mL	男性	242 人
	女性	1,446
	計	1,688
400mL	男性	20,619
	女性	6,517
	計	27,136
成 分	男性	12,388
	女性	4,628
	計	17,016
合 計		45,840

【年齢別】

年齢区分	献血者数
16～19歳	2,287 人
20～29歳	6,305
30～39歳	5,976
40～49歳	10,286
50～59歳	14,658
60～69歳	6,328
合 計	45,840

【職業別】

職業区分	献血者数
公 務 員	6,881 人
会 社 員	27,227
学 生	4,313
そ の 他	7,419
合 計	45,840

【性別】

区 分	男 性	女 性	合計
献 血 者 数	33,249 人	12,591 人	45,840 人

【献血登録者】 ラブラット会員含む

	A型	O型	B型	AB型	不明	合計
Rh(+)型	27,004 人 (25)	22,406 人 (46)	16,366 人 (24)	7,483 人 (9)	人	73,259 人 (104)
Rh(-)型	268 (3)	259 (5)	191 (2)	97 (0)		815 (10)
合計	27,272 (28)	22,665 (51)	16,557 (26)	7,580 (9)	1,702	75,776 (114)

() 内は、まれ血の再掲

③ 血液製剤供給状況(令和6年度)

令和6年度中の血液製剤供給本数は、200mL献血換算数で147,870本、その内訳は次のとおりである。

製剤名			供給数	供給数					計	構成比	
				1 単位	2 単位	4 単位	5 単位	10単位			15単位
全血製剤	照射人全血液－LR		本 0	本 0	本 －	本 －	本 －	本 －	本 －	単位 0	% 0.0
	全血製剤計		0	0	－	－	－	－	－	0	0.0
	成分製剤	赤血球製剤	照射赤血球液－LR	1,685	22,884	－	－	－	－	－	47,453
照射洗浄赤血球－LR			8	46	－	－	－	－	－	100	0.1
照射解凍赤血球－LR			0	0	－	－	－	－	－	0	0.0
照射合成血－LR			0	0	－	－	－	－	－	0	0.0
計			1,693	22,930	－	－	－	－	－	47,553	32.2
血漿製剤		新鮮凍結血漿－LR	315	7,329	271	－	－	－	－	16,057	10.9
		計	315	7,329	271	－	－	－	－	16,057	10.9
血小板製剤		照射濃厚血小板－LR	0	0	－	99	8,118	21	2	82,030	55.5
		照射濃厚血小板HLA－LR	－	－	－	－	207	0	0	2,070	1.4
		照射洗浄血小板－LR	－	－	－	－	16	－	－	160	0.1
		計	0	0	－	99	8,341	21	2	84,260	57.0
血液成分製剤計			2,008	30,259	271	99	8,341	21	2	147,870	100.0
合 計 (単位)			2,008	60,518	1,084	495	83,410	315	40	147,870	100.0
令和5年度 (単位)			1,476	56,556	1,444	365	72,530	465	0	142,747	

④ 原料血漿確保量(令和6年度)

原料血漿確保目標量 12,521 L 確保量 12,601 L
(令和5年度目標量 11,355 L)

16 決 算 状 況

(1) 令和6年度一般会計石川県支部歳入歳出決算書

歳 入

科 目		予 算 現 額			決 算 額	収入未済額	予算現額に 比 し 増 減
		当初予算額	補正予算額	計			
社資 収入	一般社資収入	円 146,000,000	円 4,793,000	円 150,793,000	円 154,474,169	円 0	円 3,681,169
	法人社資収入	12,000,000	12,000,000	24,000,000	35,477,047	0	11,477,047
計		158,000,000	16,793,000	174,793,000	189,951,216	0	15,158,216
委 託 金 等 収 入		0	0	0	6,641,258	0	6,641,258
補助金及び交付金収入		4,030,000	0	4,030,000	3,894,293	0	△ 135,707
災害義援金預り金収入		0	9,486,933,000	9,486,933,000	9,486,932,097	0	△ 903
繰 入 金 収 入		0	19,574,510,000	19,574,510,000	19,574,509,268	0	△ 732
資 産 収 入		0	0	0	888,830	0	888,830
雑 収 入		5,657,000	0	5,657,000	3,669,606	0	△ 1,987,394
前年度繰越金		22,456,000	19,000,000	41,456,000	42,252,810	0	796,810
合 計		190,143,000	29,097,236,000	29,287,379,000	29,308,739,378	0	21,360,378

歳 出

科 目		予 算 現 額				決 算 額	翌 年 度 繰 越 額	不 用 額
		当初予算額	補正予算額	流用増減額	計			
災害救護事業費		円 17,732,000	円 28,481,549,000	円 0	円 28,499,281,000	円 28,497,393,085	円 0	円 1,887,915
社 会 活 動 費		53,174,000	0	0	53,174,000	45,134,995	0	8,039,005
国 際 活 動 費		1,100,000	0	0	1,100,000	1,100,000	0	0
地区分区交付金支出		19,968,000	0	0	19,968,000	13,999,000	0	5,969,000
社 業 振 興 費		27,030,000	0	0	27,030,000	23,755,057	0	3,274,943
基盤整備交付金・補助金支出		0	0	300,000	300,000	300,000	0	0
積 立 金 支 出		5,788,000	610,894,000	0	616,682,000	616,177,083	0	504,917
総 務 管 理 費		34,178,000	0	0	34,178,000	29,850,705	0	4,327,295
資産取得及び資産管理費		5,487,000	0	0	5,487,000	5,101,742	0	385,258
本社送納金支出		23,700,000	4,793,000	0	28,493,000	28,492,682	0	318
予 備 費		1,986,000	0	△ 300,000	1,686,000	0	0	1,686,000
合 計		190,143,000	29,097,236,000	0	29,287,379,000	29,261,304,349	0	26,074,651

歳入歳出差引額 47,435,029円 翌年度繰越金

(2) 令和6年度医療施設特別会計歳入歳出決算書

金沢赤十字病院

科 目		決 算 額
医 業 収 益	入 院 診 療 収 益	3,338,099,562 円
	室 料 差 額 収 益	88,440,000
	外 来 診 療 収 益	1,666,066,169
	保 健 予 防 活 動 収 益	156,096,946
	受託検査・施設利用収益	0
	そ の 他 の 医 業 収 益	48,474,968
	保 険 等 査 定 減	△ 16,641,994
	小 計	5,280,535,651
医 業 費 用	材 料 費	1,249,002,201
	給 与 費	2,559,262,190
	委 託 費	451,624,152
	設 備 関 係 費	624,850,448
	研 究 研 修 費	14,108,524
	経 費	276,132,209
	小 計	5,174,979,724
医 療 事 業 損 失		105,555,927
医 業 外 収 益		143,352,147
医 業 外 費 用		8,217,639
医 業 外 利 益		135,134,508
医 療 社 会 事 業 収 益		9
医 療 奉 仕 費 用		88,083,515
医 療 社 会 事 業 損 失		△ 88,083,506
付 帯 事 業 収 益		28,652,506
付 帯 事 業 費 用		40,150,754
付 帯 事 業 損 失		△ 11,498,248
特 別 利 益		0
特 別 損 失		105,104
特 別 損 失		△ 105,104
法 人 税 等		0
収 益 的 収 入 合 計		5,452,540,313
収 益 的 支 出 合 計		5,311,536,736
当 期 純 損 失		141,003,577

17 日本赤十字社石川県支部役員名簿

(令和7年4月10日現在)

役職名	氏名	当初就任年月日	選任回数	至任期	備考
支部長	馳 浩	令和 4. 3. 27	2	令和10. 3. 26	石川県知事
副支部長	村 山 卓	令和 4. 3. 15	2	令和10. 3. 14	石川県市長会長
副支部長	矢 田 富 郎	令和元. 6. 18	2	令和 7. 6. 17	石川県町長会長
副支部長	塗 師 亜紀子	令和 7. 4. 1	1	令和10. 3. 31	石川県健康福祉部長
評議員	※荒 木 龍 平	平成19. 2. 14	7	令和10. 2. 13	石川県日赤紺綬有功会 会長
評議員	※吉 田 國 男	平成22. 2. 14	6	同 上	財団法人石川県社会保険協会 理事
評議員	※明 石 寛 治	令和 4. 2. 14	2	同 上	株式会社明石合銅 相談役
評議員	※田 上 好 道	平成26. 2. 14	5	同 上	石川県商工会連合会 顧問
評議員	※能木場由紀子	平成20. 4. 23	7	同 上	石川県婦人団体協議会 会長
評議員	※寺 本 良 之	令和 3. 4. 24	3	同 上	赤十字奉仕団石川県支部委員会 委員長
評議員	前 千代子	令和 4. 4. 1	2	同 上	金沢市校下婦人会連絡協議会 副会長
評議員	黒 瀬 純 一	令和 7. 4. 1	1	同 上	金沢市消防団連合会 会長
評議員	高 野 善 一	令和元. 12. 3	3	同 上	金沢市民生委員児童委員協議会 会長
評議員	高 柳 晃 一	令和 5. 6. 29	2	同 上	金沢市社会福祉協議会 会長
評議員	林 充 男	令和 3. 5. 31	3	同 上	金沢市シルバー人材センター 理事長
評議員	山 田 啓 之	令和 4. 6. 22	2	同 上	金沢市副市長
評議員	小 浦 敏 登	令和 6. 9. 9	2	同 上	金沢市公民館連合会 副会長
評議員	中 川 一 成	令和 2. 4. 1	3	同 上	金沢市町会連合会 会長
評議員	浦 上 光太郎	令和 6. 4. 1	2	同 上	金沢市老人連合会会長
評議員	茶 谷 義 隆	令和 2. 11. 14	3	同 上	七尾市長
評議員	宮 橋 勝 栄	令和 3. 4. 13	3	同 上	小松市長
評議員	二 木 秀 樹	令和 7. 4. 10	1	同 上	小松市町内会連合会 会長
評議員	坂 口 茂	令和 4. 3. 19	2	同 上	輪島市長
評議員	泉 谷 満寿裕	平成18. 6. 12	8	同 上	珠洲市長
評議員	宮 元 陸	平成25. 10. 30	5	同 上	加賀市長
評議員	岸 博 一	令和 2. 11. 1	3	同 上	羽咋市長
評議員	油 野 和一郎	平成16. 4. 12	8	同 上	かほく市長
評議員	田 村 敏 和	令和 5. 4. 23	2	同 上	白山市長
評議員	松 本 祐 紀	令和 5. 4. 27	2	同 上	白山市町会連合会 会長
評議員	井 出 敏 朗	平成29. 2. 27	4	同 上	能美市長
評議員	栗 貴 章	平成19. 6. 10	7	同 上	野々市市長
評議員	前 哲 雄	平成23. 4. 27	6	同 上	川北町長
評議員	生 田 勇 人	令和 7. 2. 14	1	同 上	内灘町長
評議員	寶 達 典 久	令和 7. 2. 14	1	同 上	宝達志水町長
評議員	宮 下 為 幸	令和 3. 4. 3	3	同 上	中能登町長
評議員	吉 田 義 法	令和 7. 4. 10	1	同 上	能登町長
監査委員	岸 弘 市	平成12. 2. 21	9	令和 9. 2. 20	産業カウンセラー
監査委員	高 澤 良 英	平成27. 2. 21	4	同 上	七尾商工会議所 常任顧問
監査委員	武 田 純	令和 5. 11. 1	1	令和 8. 10. 31	株式会社武田工業所 取締役顧問
本社代議員	田 谷 正	令和 4. 2. 14	2	令和10. 2. 13	医療法人社団田谷会 理事
本社代議員	持 木 一 茂	令和 7. 2. 14	1	同 上	石川県人事委員会 委員長
本社代議員	富久尾 佳 枝	令和 7. 2. 14	1	同 上	金沢経済同友会 理事
本社理事	田 谷 正	令和 5. 4. 1	1	令和 8. 3. 31	医療法人社団田谷会 理事

※印は支部長選出評議員

(順不同、敬称略)

役 職 名	氏 名	当初就任年月日	備 考
支部参与	徳 田 博	令 和 4. 4. 1	石川県副知事
支部参与	浅 野 大 介	令 和 6. 7. 1	石川県副知事
支部参与	西 村 将	令 和 7. 4. 1	石川県健康福祉部次長
支部参与	表 英登志	令 和 7. 4. 1	石川県健康福祉部厚生政策課長
支部参与	関 涉	令 和 6. 4. 1	石川県健康福祉部医療支援課長
支部参与	大 岸 雅 幸	令 和 7. 4. 1	石川県健康福祉部薬事衛生課長
支部参与	稲 岡 健太郎	令 和 7. 2. 14	志賀町長
支部参与	吉 村 光 輝	令 和 7. 2. 14	穴水町長
支部参与	小 林 敏 明	令 和 7. 4. 1	金沢市町会連合会事務局長
支部参与	普 赤 清 幸	令 和 元. 7. 2	金沢商工会議所専務理事

(順不同・敬称略)

支 部 長	1 名	本 社 代 議 員	3 名
副 支 部 長	3 名	本 社 理 事	1 名
評 議 員	32 名	支 部 参 与	10 名
監 査 委 員	3 名	計	53 名

